



2026年6月8日

各位

会社名 ミライアル株式会社  
代表者名 代表取締役社長 兵部 匡俊  
(コード：4238 東証スタンダード)  
問合せ先 取締役 執行役員 CFO 羽山 哲生  
電話番号 03(3986)3782

## 2027年1月期第2四半期累計期間 連結業績予想および配当予想に関するお知らせ

未公表でありました2027年1月期第2四半期累計期間の連結業績予想および配当予想を下記のとおりお知らせいたします。

### 記

#### 1. 2027年1月期第2四半期（累計）の連結業績予想（2026年2月1日～2027年7月31日）

|                          | 売上高   | 営業利益 | 経常利益 | 親会社株主に<br>帰属する<br>中間純利益 | 1株当たり<br>中間純利益 |
|--------------------------|-------|------|------|-------------------------|----------------|
|                          | 百万円   | 百万円  | 百万円  | 百万円                     | 円 銭            |
| 前回発表予想 (A)               | -     | -    | -    | -                       | -              |
| 今回修正予想 (B)               | 7,970 | 480  | 500  | 360                     | 39.83          |
| 増減額 (B-A)                | -     | -    | -    | -                       |                |
| 増減率 (%)                  | -     | -    | -    | -                       |                |
| (参考) 2026年1月期<br>第2四半期実績 | 6,340 | 334  | 362  | 283                     | 31.40          |

#### 2. 2027年1月期第2四半期（累計）の連結業績予想の開示理由

第2四半期累計期間の連結業績予想につきましては、2026年3月9日の決算発表時において合理的な業績予想の算定が困難であったことから未公表としておりましたが、現時点での入手可能な情報に基づいて予想値の算出が可能となったため、第2四半期累計期間の連結業績予想を公表いたします。

プラスチック成形事業は、半導体市場において、AIを中心とした先端品の需要が旺盛な一方で、既存品の需要回復には一定の時間を要しているなか、緩やかな回復基調が継続するものと見込まれます。成形機事業は、自動車業界のHEV回帰への方向性が明確になってきたことにより、特に海外での動きが活発化の兆しがあり、受注状況は回復していくものと見込まれます。ただし、中東情勢の影響による樹脂供給不足のため、受注活動に影響を及ぼす可能性があります。その結果、第2四半期累計期間の連結売上高は7,970百万円となる見込みです。

営業利益および経常利益につきましては、プラスチック成形事業・成形機事業とも売上高が増加し、これに伴う生産効率の改善により、前年同期実績に対し増益となる見込みです。

### 3. 配当予想

|                    | 年間配当金  |       |       |
|--------------------|--------|-------|-------|
|                    | 第2四半期末 | 期 末   | 合計    |
|                    | 円 銭    | 円 銭   | 円 銭   |
| 前 回 発 表 予 想        | —      | —     | —     |
| 今 回 発 表 予 想        | 30.00  | —     | —     |
| 前期実績 (2026 年 1 月期) | 10.00  | 40.00 | 50.00 |

### 4. 配当予想の開示理由

昨年度（2026 年度 1 月期）から企業価値向上に向けたな取り組みとして、更なる収益力向上による事業成長やM&A、および資本市場からの要請に沿った資本政策・財務戦略の両輪を通じて、ROE と PER の向上を促進しています。また、有利子負債を活用するとともに、積極的な配当や自己株式取得等、新たに株主還元を強化し、資本コスト通減による最適な資本構成も実現します。これにより、PBR 1 倍を恒常的に達成し、中長期的な企業価値の最大化を目指します。

本取り組みにおいて、新たに配当性向の指標を「総還元性向 30%またはDOE 2%のいずれか高い方を下限とした安定配当」に見直し、株主還元を強化しています。

第2四半期末を基準日とする配当（中間配当）は1株当たり30円を予想しています。

※上記の業績予想は、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、不確定な要素を含んでおります。実際の業績は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

以 上